

青梅市文化財ニュース

第 1 5 5 号

平成12年 9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

体験学習講座開催中

青梅市に残されている多くの文化財は、有形無形を問わずその中に、往時の思想、生活習慣や知恵が入り込み、その良さを活かしながら代々伝え、現在に残されています。私たちの生活の中でも、特別な意識も無く時を過ごしながらも、季節に合わせて行うしきたりや物事の中には、生活しながら改善され、多くの知識を何十年何百年と受け継いで今日に活かしている物事が沢山あるわけです。

急激な社会の変化に伴い、実生活の変貌は、暇の無い、ゆとりの無い世の中へと変わってきていますが、原点に戻り、長く受け継がれてきた生活の知恵を文化財を介して勉強しようという趣旨が、今回の体験学習の企画です。

その第一弾として、8月26日に『小麦の脱穀』と銘打ち、実演を兼ねた勉強会が、雰囲気盛り上げる意味も込め、重要文化財『旧宮崎家住宅』で行われました。

今回の学習は昭和期以前、概ね今から70ぐらい前を想定し、郷土博物館に寄贈された『唐箕^{とうみ}』や『くるり棒^{せんばこ}』、『千把扱き』等の他、むしろ（藁でできた敷物）1,850円と、箕（み：風を利用した選別、運搬用具）9,800円を市内でも数少ないこれらの道具箱から購入し、当時行われた作業がどのようなポイントをいかに活かしたもののなのかを体験しました。

また、大正以降の現代では近世、近代の機能がどのように反映され、変わってきたのか等を、実際に当時のままの道具を利用し、参加者の方々に実演してもらいながらの体験を行いました。道具の利点がどのようなものか、同じ仕事を行う上での道具がどのように進歩したのか等の身を持っての学習です。

これからの日程は、平成12年9月9日（土）『竹割の体験』、10月14日（土）『そば策（ざる）に制作体験』、11月11日（土）『そばの石うす製粉の体験（石臼・石皿の知恵）』、12月9日（土）『しめ縄・紙飾り作りの体験、年越しそば作り』などを5回シリーズで予定しています。昔から受け継がれ、生活する上で、行われていたいろいろな事柄は、代々行われるごとに便利に、道具に込められた人間の知恵がわかります。これらの事を身を持って感じ、その知恵が現代でも身近に活かされているところがわかれば、この企画の本望だと思います。

（文責 鈴木 晴也）